

株式会社 サン機工

次世代の
パイプ曲げ加工機械を開発
熟度高めて商品化を急ぐ

新商品開発に工作機械を刷新



社員が工夫を重ねて開発を急ぐ



「トリプルベンダー」の試作機

事業内容
パイプ曲げ加工機が
主力の産業機械メーカー

大阪市平野区にて昭和56年に創業。当初、金属加工業を生業としてきたが、創業から10年後に取引先からパイプの曲げ機械（ベンダー）製作の依頼を受けたことをきっかけに、現在の産業機械メーカーへと業態を転換した。以後、ベンダーにとどまらずロール加工機や溶接加工機など、ニーズに応じてさまざまな金属加工機を製造。企画、設計から製造までを社内で一貫しており、創意あふれるオンリーワンの機械を世の中に送り出してきた。

10年前には旧工場が手狭になったため、大阪府富田林市に移転。生産スペースは3倍超となり、従業員も2倍超に大幅増員。大型機械も導入し、飛躍を期した。時にリーマンショックで景気の減退局面を迎えるタイミング。直前で設備導入を終えることができ、受注にも順調に対応できたことから業績は伸長した。これまでに累計2,000台近い機械を出荷。主力のベンダーは大手メーカーの生産ラインのほか、東日本大震災の復興の現場でも活躍する。

補助事業
老朽工作機械の更新で、
新製品の開発に挑戦

メーカーとして自らのアイデアを形にする新製品開発には、こだわりをもっている。顧客の依頼に応じて作る一品モノだけでなく、1—2年に一度はカタログ製品を作り出そうと努めてきた。村上靖博社長には長年温めていたアイデアがあった。それはパイプの曲げ加工で、主力商品の「デグリーベンダー」とは異なる機構を採用した革新的なベンダーの開発だ。パイプを把持せずに加工できるため、後工程で切断を要せず材料を無駄にしないのが最大の特徴である新商品「トリプルベンダー」。省エネルギーかつコンパクトで、連続曲げ加工にも適している。試作機を製作してみたところ、量産には高精度な加工技術が必要だということが明らかになった。

既設のマシニングセンター（MC）は30年以上前に導入したもの。ここ数年は、精度を出すのに後加工を工夫するなどして苦労していた。このため、中小企業庁の「ものづくり補助金」を活用して最新の立型MC導入に取り組んだ。

具体的成果
新機械導入は工場に好影響
与え、開発も順調に進んだ

新しいMCは工場内に活気をもたらした。補助金とは別に、小型のMCも同時導入。2台の新しい機械を使うのは入社数年の若手だ。経験が浅くても、キーボード入力に慣れた世代が活躍している。村上社長も「当社始まって以来、最強のメンバーだ」と目を細める。新しいMCは加工精度、生産性ともに満足いくモノだ。村上社長は「設計の仕方も従来とは変わってきた」と、ものづくりの変革に手応えを感じており、新たな新商品開発欲にも火が付いているようだ。

当面の目的としていた「トリプルベンダー」の開発も順調に進んでいる。早速、改良型試作機を製作し、量産に向けて商品の磨き上げに取り組んでいるところ。社員も、後加工に苦心することがなくなり、その労力を新商品へのアイデア出しに振り向けられるようになった。年内にも商用機を完成できる見通しだ。効果は、それだけにとどまらない。社内に高精度で生産効率の高い加工技術を得たことで、従来よりも部品の内製化率も高められる。従来、約30%だった外注比率は、半減できそうだという。当然、利益率も高まる。前期決算は絶好調で、社員に決算賞与を供給できた。

今後の戦略
事業承継を目前に、次代を
担う若手社員の育成に尽力

年内に発売を予定する「トリプルベンダー」の拡販に取り組む考えだ。昨年から宣伝を始めており、商品化前にも関わらずインターネットなどを経由して、問い合わせが寄せられているという。村上社長は早くも次に開発するベンダーの構想に着手しており、さらなるラインアップの強化を視野に入れている。一方で「会社を次代に引き継ぐタイミングにきている」と村上社長も話すように、「サン機工」にとって中期的には事業継承が大きなテーマとなる。すでにリーダー候補の育成にも取りかかった。

今後の機械開発も、従来のように村上社長のアイデアを元にするのではなく、現場から積極的にアイデアが出てくるよう仕掛け作りに取り組んでいるところだ。「トリプルベンダー」の商品化に向けた磨き上げもその1つだ。村上社長は社外からの開発依頼に対して「“できません”は言ったことがない」と振り返る。これまで常に顧客が求める以上の目標を掲げて成果を挙げてきた。次代を担う若手社員たちにも、そのDNAの継承を期待する。

株式会社 サン機工

代表取締役 村上 靖博

〒584-0023 大阪府富田林市若松町東2-5-5

TEL. 0721-20-0078

FAX. 0721-20-0088

資本金／10,000千円

従業員／18名

短納期 企画力 小ロット OK オンライン 海外対応

あふれるアイデアで
オンリーワンの産業機械を創出

代表取締役 村上 靖博

構想して図面を作って、試作する。何度も挑戦できるところに、町工場の強みはあると思います。これからも1、2年に一度はオリジナルの商品を開発していけるように取り組みたい。そのためにも後継者育成に努めています。



取材を終えて

最新設備の導入が
創意工夫を引き出す

加工精度・生産性の高い工作機械の導入によって、これまで必要だった仕上げ作業などの負担が軽減された。社内の技術者は、より創造的な仕事に時間を割けるようになったという。コンスタントに新製品開発に取り組むことで、技術者は創意工夫に努めて知見や勘を身につけることができる。メーカーとしての開発力強化につながるのと同時に、次世代を担う技術者の育成にも、相乗効果が期待できそう。

<http://www.sunkiko.co.jp/>